

令和 4 年度武蔵野市地域自立支援協議会の活動方針について

会長 岩本 操

1. はじめに

令和 3 年度に新たな協議会体制（部会構成）を始動させ、令和 3 - 4 年度の 2 か年計画で各部会のミッションを設定した。令和 4 年度は令和 3 年度の協議会テーマ及び活動方針を継続し、各部会は令和 3 年度に設定したミッションの達成に向けて計画的に活動を進めていただきたい。

2. 令和 3 - 4 年度：協議会テーマと活動方針，専門部会のミッション

- テーマ：当事者とともに多様な人々と協働して武蔵野市の地域課題に取り組む
- 活動方針：「武蔵野市障害者計画・第 6 期障害福祉計画」の示す地域課題の解決・改善に取り組む
- 5 つの専門部会の役割と今期のミッション

部会名 担当委員（○部会長）	部会の主旨と今期のミッション ※計画該当ページ
地域生活支援拠点部会 ○荒木委員 植村委員 佐藤律々子委員	地域生活支援拠点の地域生活支援拠点の 5 つの機能（①相談、②体験の機会・場、③緊急時の受入対応、④専門的人材の確保・養成、⑤地域の体制づくり）について、地域課題に対応したネットワークの強化を図り、武蔵野市における拠点の仕組みを示す。 ※重点 3 【p36-38】，施策 3（3）【p53】
地域移行部会 ○小原委員 岩本委員 栗原委員	精神障害者の地域移行の推進は喫緊の課題であるが、武蔵野市においてはその実態把握や課題抽出及びそれらの協議のあり方から検討する必要がある。 本部会では、まずは精神科病院に長期入院されている武蔵野市民の実態把握を行う。その結果をもとに地域移行に向けた課題を精査し、関係者による協議のあり方を示す。 ※重点 3 【p36】，施策 2（1）【p49】
差別解消部会 ○横山委員 佐藤清佳委員 久保田委員 番園委員	差別解消の推進に向けた取り組みは多様であるが、本部会では障害のある方が地域生活において利用する一般民間事業（公共交通機関や店舗など）に向けた働きかけにターゲットを置く。 前期協議会の「くらす部会」の活動（関東バス武蔵野営業所への働きかけ）は大変有意義なものであり、本部会はその活動を継承し、一般事業所における障害の理解促進に向けたモデルを示す。 ※重点 6 【p41】，施策 1（3）【p45-47】

<p>コロナ対応部会</p> <p>○三浦委員 佐藤資子委員</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の蔓延は、従来の支援方法や事業所活動に対してさまざまな変更や工夫を要することになった（例；三密を避け、マスクをしながらの直接支援やプログラムの実施、利用者に感染防止を促す方法の模索、訪問や直接支援の代替、感染防止対策をめぐる事業所間連携など）。</p> <p>こうした取り組みや実践例を集約し、with コロナにおける支援継続のノウハウを提示する（この成果は災害時における障害のある方への配慮等に活かすことができると考えられる）。</p> <p>※重点 1 【p32】、施策 3（7）【p55】</p>
<p>障害当事者部会</p> <p>○福本委員 安東委員 長谷川委員</p>	<p>これまでの障害当事者部会の活動を継承し、当事者の視点から武蔵野市の地域課題を提示する。他の専門部会の役割及びミッションを踏まえて、それらの協議・活動に障害当事者部会の代表として参画する。</p> <p>計画に掲載された「心のバリアフリー」ハンドブックの改訂（改訂作業は別に委員会が担当している）に協力する。</p> <p>※重点 6 【P41】、施策 1（3）【P46】</p>

3. 今年度の部会の活動に向けて

- 2 か年計画 2 年目の活動であることを踏まえ、各部会で改めて部会の役割とミッションを確認し、今年度末の具体的なゴールを設定して計画的に勧めていただきたい。
- そのために必要な事項（新たな部会員の参画、勉強会等の企画・実施など）があれば、早めに親会に共有していただき、事務局と相談しながら進めていただきたい。
- 令和 5 年度には第 7 期の計画策定、令和 4 年度は計画策定に向けた実態調査が予定されている。それらとの関連性、連動性を念頭に置きつつ活動を進めていただきたい。